

みんな同じ人間

雲南市立三刀屋中学校 二年 センテノ ザリーナ ソピア ヴェルデ

私は、外国人差別や人種差別は絶対してはいけないと考えています。それは、私が差別をされたことがあるからです。私の名前からわかるとおり、私の両親は外国人で、私は日本人ではありません。

私が経験した差別は外国人差別です。SNSに誹謗中傷を書き込まれたり、外国人に対する偏見によるひどい発言をされたりなどのいじめを受けました。最もつらかったのは、学校で私が聞こえる範囲にいるのにもかかわらず悪口を言われたり、馬鹿にされたりしたことです。また、親のことまで批判され、勝手に決めつけられ、根も葉もないことをさんざん言われ続けました。今では、その差別は収まっていますが、もし、またこのようなことがあったらと思うと、気持ちが沈んでしまうので、あまり考えないようにしています。また、このことは私の親には伝えていません。私のことで親を悲しませると思うと、今はとても伝えられません。いつか、

「こんなことがあったんだ。」

と、親に伝えられる日がくるといいなと思っています。

私が日本に住む「外国人」であることは動かしがたい事実で、自分ではどうすることもできません。それなのに「外国人」というだけで、これまで苦しめられてきました。もしかしたら私の家族にも同様のことが起こっていたのかもしれませんが。何も悪いことをしていない人まで巻き込まれることがあります。する方は悪ふざけ、軽い気持ちで誹謗中傷や悪口を言う場合があるかもしれません。または自分のイライラに対して、人を攻撃することで解消しようとする人もいるかもしれません。しかし、そのようなことで差別したり、悪口を言ったりしないでください。差別やいじめ、誹謗中傷などで苦しみ、自ら命を絶つ子どもや大人も沢山いるのです。私は自分が差別を受けた側として、このことのつらさは誰よりも分かっています。

「人権」における差別もまた大きな問題です。数年前にニュースで取り上げられましたが、一九四四年に十四歳の少年が、その若さで死刑となった例があります。アメリカ、サウスカロライナ州に住んでいた少年は、二人を殺害した容疑で拘束され、裁判の結果、死刑判決を受けました。この裁判が不当であったとして、七十年も後になって判決が覆されました。この出来事で重要なのは、その少年が当時最年少で死刑判決を受けたことと、その少年が黒人であり、それが判決に影響しているかもしれないと考えられていた点です。

また、二〇二〇年アメリカミネソタ州で、複数の警察官が黒人男性を押さえつけたことにより、男性が死亡した事件は「ブラック・ライブズ・マター」運動のきっかけとなりました。

これらのように、理不尽な理由で命を奪われていいのでしょうか。いいわけありません。

私は、これらのことを調べてみて、なぜ罪のない人の命が奪われるのか、なぜ肌の色や国籍が違うだけで周りの人にあれやこれや言われるのかと思い、とても腹が立つと同時に心

が苦しくなります。そして、

「差別や偏見は、絶対になくさないといけない。」

と、いつも強く思います。

この世界で多くの人たちが差別を受けて苦しんでいることを、私はみなさんに訴えたいです。私も本当に嫌な思いをたくさんしてきたから、よく分かります。また、差別をされた経験がある私ができることは、差別をされている人の話を聞いたり、そばにいて寄り添ったりすることだと思います。私もそうだったように、差別をされていることを親に言いづらい場合もあると思うので、私も一緒に考えたいです。

そのために、外国人差別や人種差別についてしっかり学び、現状について理解したいです。その上で外国人差別と人種差別をしないとといった考えではなく、常にあらゆる差別に反対し、必ずしてはいけない、という意識を持ち、行動や発言をすることがとても重要です。

私はフィリピン人です。でも日常会話で使っている言語は日本語です。頭の中で考えているときも日本語で、フィリピンにいるときはフィリピンの言語を使って喋っていますが、やっぱり頭の中で考えるときは日本語なのです。そう考えると私は日本人なのか、フィリピン人なのか正直言って私自身でも分かりません。だから私は、人種や国籍などは関係なく、一地球人だと考えるようにしています。地球規模で考えると、同じ地球に住む者として、皆同じです。これからも、国籍や肌の色を気にせず、差別を絶対にしないきれいな心で、私の人生を歩んでいきたいです。

みなさんは差別についてどう考えていますか。私はこのことについてもっとみなさんと話し合いたいです。